

番号	12	平成26年度公共事業再評価調査				担当課名 港湾整備課	
事業名	港湾環境整備事業			事業主体	静岡県		
箇所名	しみずこう しんおきつちく 清水港(新興津地区)			関係市町村	静岡市		
事業採択年度	平成12年度		計画期間	平成12年度～平成32年度			
用地着手年度	-		工事着手年度	平成13年度			
再評価理由※	再評価実施(H21)後5年が経過						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～H24年度	H25年度	H26年度見込	計	
	6,000		1,489	113	63	1,665	
事業概要	<p>(1)事業目的 港湾整備により失われたかつての美しい興津地区の海岸の復元を目指して、自然と触れ合える海浜、緑地を整備し、快適な海浜環境を創出する。 隣接する小型船溜り整備計画と連携して、地域振興の核となる観光交流拠点を整備する。</p> <p>(2)事業内容 人工海浜延長400m、緑地面積112,000m<sup>2</sup>(レクリエーション緑地面積72,000m<sup>2</sup>、 休息緑地(兼防災拠点緑地)面積40,000m<sup>2</sup>)</p>						
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会情勢等の変化 新興津国際海上コンテナターミナル整備と合わせた早期完成を目指す本事業は、地元をはじめ地域全体から強い要望がある。また、平成26年3月に策定した駿河湾港湾整備基本計画の「交流・生活・環境」の取組施策において短期主要事業に位置付け、整備推進を図っている。 人工海浜・緑地事業は、平成25年度末の進捗率が28%であり、国際海上コンテナターミナル整備の88%に対して遅れているため、隣接する小型船溜り整備事業の観光交流拠点機能整備と連携した、効果的な事業推進が必要である。 東日本大震災の津波被害を踏まえ、海浜公園利用者への津波避難対策の強化が必要になる。</p> <p>(2)事業の投資効果 B/C=2.30 ・総便益(B) 133.02億円(現在価値換算) 地域環境改善便益(緩衝・修景) 0.68億円 自然環境向上便益(エコ) 55.37億円 交流、レクリエーション便益(パブリックアクセス) 74.51億円 土地の残存価値 2.46億円 ・総費用(C) 57.73億円(現在価値換算) 建設費 52.4億円 維持管理費 5.33億円</p> <p>(3)事業の進捗状況 事業費ベース: 27.8% (H26末見込: 1,665百万円/6,000百万円) 事業量ベース: 35.7% (H26末見込: 供用済緑地面積40,000m<sup>2</sup>/112,000m<sup>2</sup>) 防災拠点緑地を兼ねた休息緑地が完成している。</p>						
事業の必要性	<p>評価 <u>継続が妥当</u> ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>緑地整備に対する地元住民の期待も非常に大きく、休息緑地の完成に引き続き、残りのレクリエーション緑地や人工海浜についても、早期整備による効果の発現に努めていく。 人工海浜の整備は平成20年度より外郭施設の整備に着手しており、今後、水際部の整備に着手する。 津波避難対策として、築山(命山)整備や避難経路確保を図る。</p> <p>評価 <u>継続が妥当</u> ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点3】 新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	<p>国直轄工事の浚渫土砂や他の公共工事からの発生土を緑地の用地造成に活用して効率的な整備を行うことにより、コスト削減に努める。 整備に伴い撤去が生じる国道護岸の消波ブロックを外郭施設の消波工へ転用して有効活用を図り、コスト削減に努める。</p>						
対応方針案	<p>(1)対応方針案 本事業を( <u>継続</u> ・ 見直し後継続 ・ 中止 )する。</p> <p>(2)理由 費用対効果も十分に認められ、緑地整備に対する地域住民の期待も非常に大きいため、事業継続とする</p>						

## 費用対効果の算出説明書

### 清水港 新興津地区港湾環境整備事業

(「港湾投資の評価に関する解説書2011」 H23.7 港湾事業評価手法に関する研究委員会編)

#### 1. 分析設定

・供用年数 50年

・社会的割引率 4%

・費用対効果分析の基本的な考え方

「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(改訂版) 平成23年6月」

#### 2. 分析結果

##### 総括表

総便益B	[地域環境改善便益(緩衝・修景)] [自然環境向上便益(エコ)] [交流、レクリエーション便益(パブリックアクセス)] [土地の残存価値]	133.02億円
総費用C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	57.73億円
B/C		2.30

※[地域環境改善便益]: 港湾周辺地域における親水空間等の環境改善(景観)の価値

※[自然環境向上便益]: 自然環境及び生態系の保全・向上の価値

※[交流・レクリエーション便益]: 港湾来訪者の交流機会増加に伴う効用の増加額

※[土地の残存価値]: 用地の残存価値(終了時点で売却すると仮定した際の売却額)

##### 総便益

年平均便益を社会的割引率4%、評価対象期間50年とし、現在価値化する。

[地域環境改善便益] =  $\Sigma(\text{世帯当りの支払意志額} \times \text{世帯数}) / (1+0.04)^n = 0.68\text{億円}$

[自然環境向上便益] =  $\Sigma(\text{世帯当りの支払意志額} \times \text{世帯数}) / (1+0.04)^n = 55.37\text{億円}$

[交流、レクリエーション便益] =  $\Sigma(1\text{人当りの消費者余剰} \times \text{利用者数}) / (1+0.04)^n = 74.51\text{億円}$

[土地の残存価値] =  $\text{清水区工業用地価格}2\text{万円} / \text{m}^2 \times 112,000\text{m}^2 / (1+0.04)^n = 2.46\text{億円}$

便益計 = 「地域環境改善便益」 + 「自然環境向上便益」 + 「交流・レクリエーション便益」 + 「土地の残存価値」 = 133.02億円

##### 総費用

建設費: 52.4億円、維持管理費: 5.33億円(評価対象期間: 50年)

費用計 =  $\Sigma \text{年間建設費} / (1+0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n$   
= 57.73億円



# 1. 事業箇所 位置図



## 清水港 港湾環境整備事業

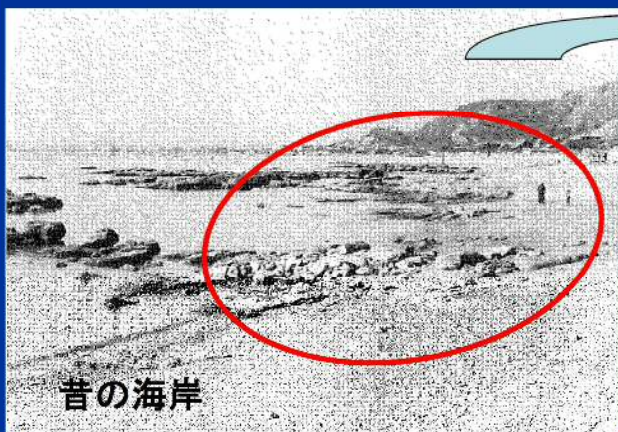


交通基盤部 港湾局 港湾整備課



かつては風光明媚であった興津海岸は、港湾を始めとする社会基盤の整備により埋立てられ、自然海岸が喪失した。

現在の海岸線



- ・埋立により喪失した砂浜や磯場
- ・消波工で覆われた景観



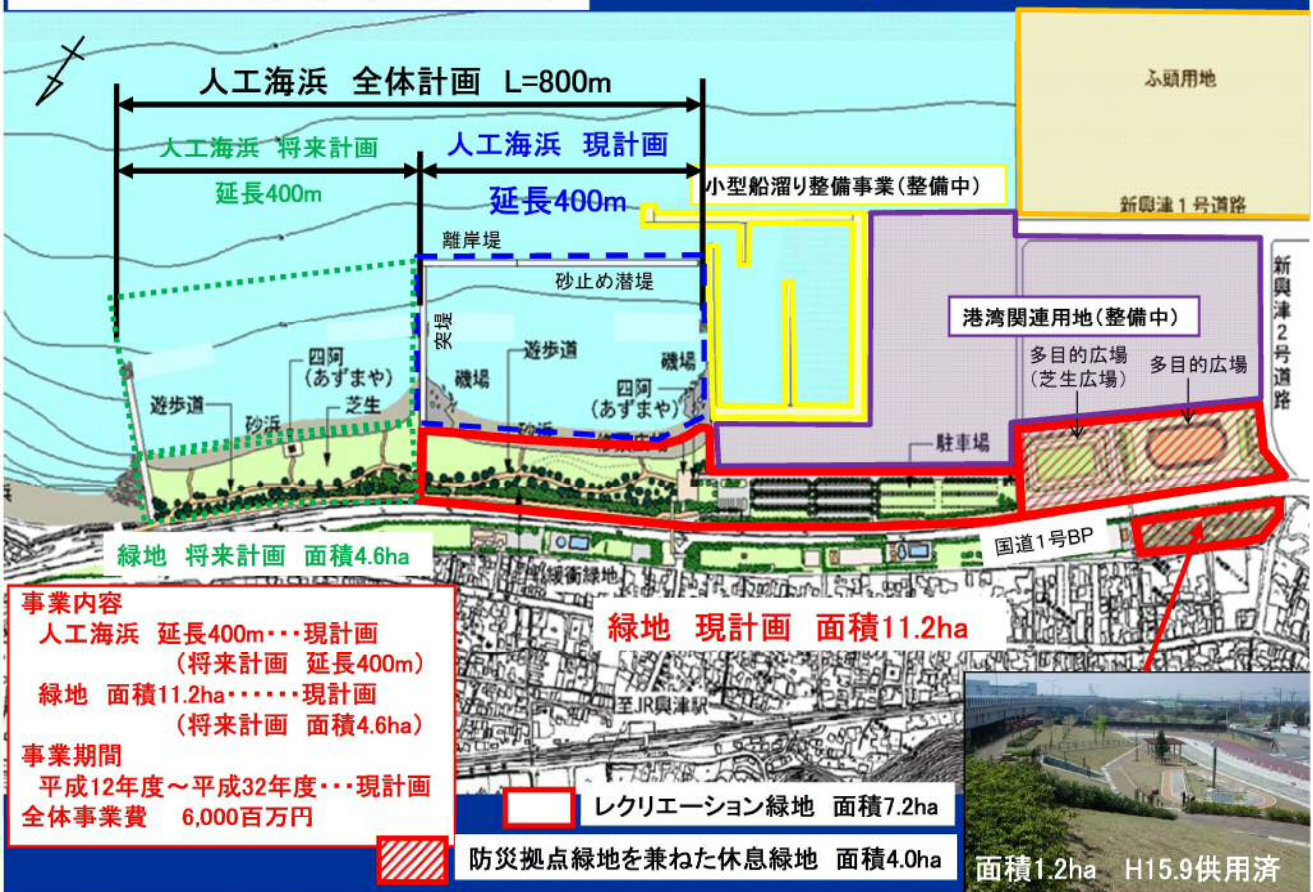
## 2. 事業概要 (1) 事業目的



- ・港湾整備により失われたかつての美しい海岸の復元を目指して、自然と触れ合える海浜、緑地を整備し、快適な海浜環境を創出する。
- ・隣接する小型船溜り整備計画と連携して、地域振興の核となる観光交流拠点を整備する。

## 2. 事業概要 (2) 事業内容

新興津国際海上コンテナターミナル(整備中)



### 事業内容

- 人工海浜 延長400m…現計画  
(将来計画 延長400m)
- 緑地 面積11.2ha…現計画  
(将来計画 面積4.6ha)

### 事業期間

- 平成12年度～平成32年度…現計画
- 全体事業費 6,000百万円



### 3. 事業の投資効果

#### ①地域環境改善便益（緩衝・修景）

港湾整備により失われた美しい海岸の復元（水際空間の創出）  
受益者数×支払意志額

#### ②自然環境向上便益（エコ）

海辺の生態系の向上（磯遊び・自然体験学習）  
受益者数×支払意志額

#### ③交流、レクリエーション便益（パブリックアクセス）

海洋レクリエーション（海水浴・散策）の利用  
利用者数×消費者余剰

#### ④土地の残存価値

用地の残存価値  
終了時点で売却すると仮定した際の売却額

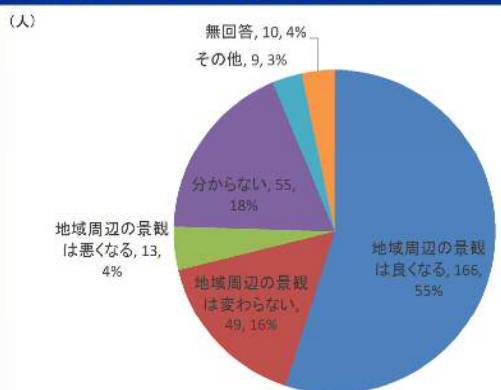
「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(改訂版) 平成23年6月 国土交通省」

## アンケート結果

#### ①地域環境改善便益（緩衝・修景）

港湾緑地の背後1km圏内の2町内（興津中町、興津本町）を対象にアンケートを実施（回答数303）

Q.港湾緑地の整備により、あなたの地域周辺環境（景観）はどうかと思いますか？

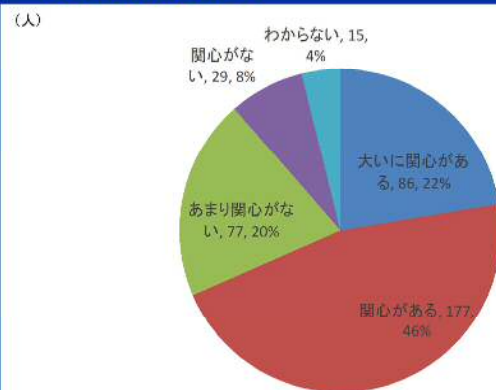


受益者数：2,498世帯  
支払意志額：1,476円  
（月額123円）

#### ②自然環境向上便益（エコ）

静岡市清水区の住民を対象にアンケートを実施（回答数383）

Q.あなたは清水港の自然環境（水質や生物など）に関心がありますか？

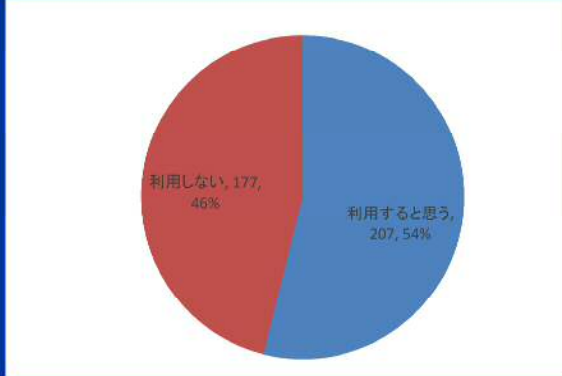


受益者数：101,246世帯  
支払意志額：3,348円  
（月額279円）

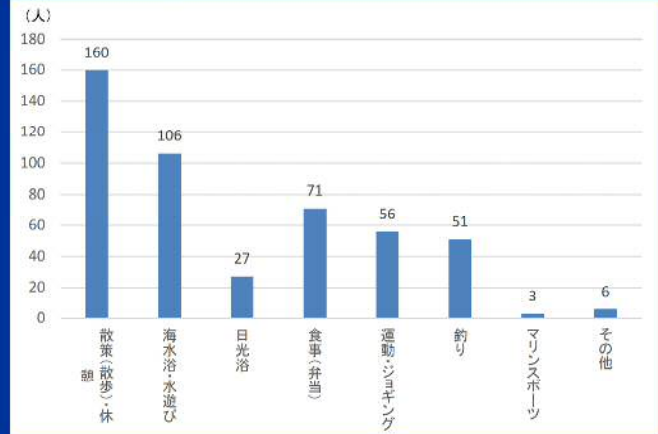
### ③交流、レクリエーション便益（パブリックアクセス）

港湾緑地の利用が想定される静岡市、富士宮市及び富士市の一部、山梨県南部の住民を対象にアンケートを実施（回答数385）

Q.港湾緑地が整備されればあなたは利用しますか？



Q.港湾緑地をどのような目的で利用しますか？（複数回答）



利用者数：171,000人

消費者余剰：2,694円

## 4. 費用対効果分析

**総便益(B) = 133.02億円（現在価値換算）**

- ・地域環境改善便益（緩衝・修景） 0.68億円
- ・自然環境向上便益（エコ） 55.37億円
- ・交流、レクリエーション便益（パブリックアクセス） 74.51億円
- ・土地の残存価値 2.46億円

**総費用(C) = 57.73億円（現在価値換算）**

- ・建設費 52.4億円
- ・維持管理費 5.33億円

**費用対効果 B/C = 2.30**